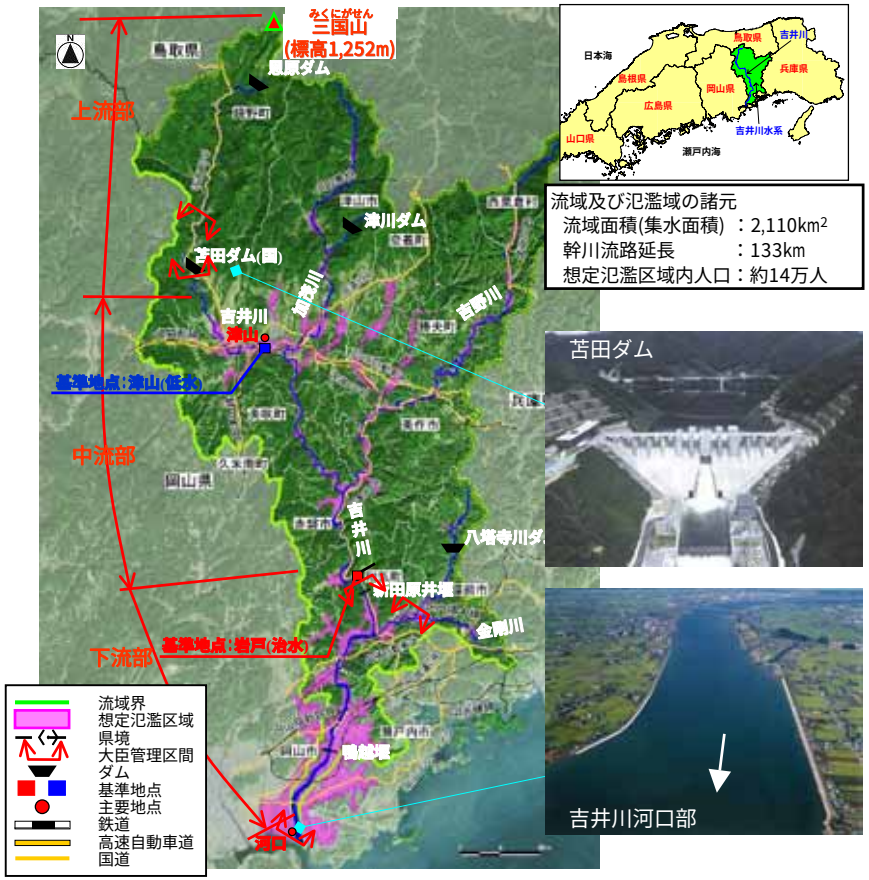
吉井川水系河川整備基本方針(案)の概要

流域及び河川の概要

■河口から5k付近までは、新田開発を目的とした干拓により形成された低平地が広がり、一度氾濫すると甚大な被害が発生
■年平均降水量は約1,700mmで、全国平均と同程度



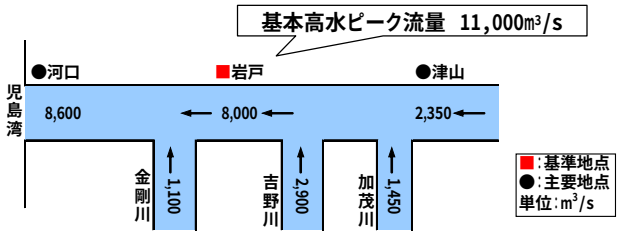
流域及び氾濫域の諸元
流域面積(集水面積) ：2,110km²
幹川流路延長 ：133km
想定氾濫区域内人口：約14万人

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

■既存施設の効率的な運用や広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、関係機関と連携しながら農業用水及び都市用水の安定供給や流水の正常な機能を維持するため必要な流量を確保する
■津山地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、通年概ね３m³/s、鴨越堰における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、通年概ね４m3/sとする

災害の発生の防止又は軽減

■既定計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水からの検討、雨量データによる確率からの検討、1/150確率規模モデル降雨波形による検討等を総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に、基本高水のピーク流量を基準地点岩戸で11,000m³/sと設定

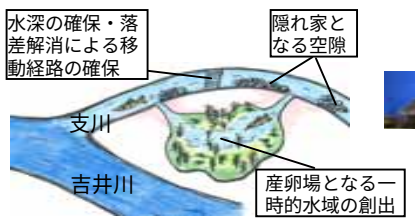


【計画高水流量配分図】

○洪水調節については、既存施設の有効活用により対応
○河道掘削等による河積の確保にあたっては、上流からの土砂供給や土砂の堆積状況、河道の侵食とその堤防への影響等を監視・把握し、河道の縦横断形状を維持できるよう計画的に実施
○下流域は干拓等により拡大した低平地が広がっており、高潮対策を実施するとともに、関係機関と調整・連携を図りつつ内水対策を実施
○下流域は「東南海・南海地震防災対策推進地域」に指定されており、地震による液状化等により堤防が被災し浸水が生じる恐れがあるため、堤防の耐震対策を実施

河川環境の整備と保全

■上流部では、オオサンショウウオ等が生息繁殖する渓流環境の保全に努める。
■中流部では、オヤニラミが生息・繁殖する水際植生等やアユの産卵場となっている瀬の保全に努める。
■下流部では、魚類が河川の上下流や本支川等を往来できるよう水域の連続性の確保等に努める。関係機関、学識者、保護活動団体、地域住民等と連携を図りながら、アユモドキが繁殖する一時的水域の創出等を行う。
■河口部では、海浜植生やヨシ原の保全に努める。



アユモドキが繁殖する一時的水域の創出

アユモドキ

奥津渓（苫田郡鏡野町）

吉井川フェスタ
(岡山市西大寺浜)